

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人むそう ほわわ品川				公表日	R8 年 3 月 15 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		室内での活動も十分にスペースを取ることができるように広さを確保している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		配置基準を満たしている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		玩具の場所には写真を掲示して片付けの場所をわかりやすくしている。自分の持ち物には名札カードがついた場所にしまうようにしている。車いすやベビーカーを通りやすくしている。送迎車も車いすのまま乗車できる車両を使用している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		1日の終わりには清掃を実施。トイレや玩具は使用毎に消毒をし、感染予防対策を取っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○	通所途中で体調不良のお子さんがある場合には、過ごす場所を分けている。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		○		職員間での共有や報告に課題がある。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			ご意見をいただいた内容に対するの確認や改善に時間がかかることがある。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○	年2回職員の個別面談を実施している。出た内容を日々の業務で改善している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者評価は実施していない。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		研修のご案内や実施をしている。	活動の目的などを1人1人の職員が説明できるようになる研修が必要。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		利用開始前には自宅へ訪問し面アセスメントを実施している。日々の通所中や年2回の面談にて保護者の意見や最近のご様子を詳しく伺っている。	状況が変化した場合にも、タイムリーにアセスメントができるようにする。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		実施している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		児童発達支援計画の目標を、日々の活動で具体的に何をするかを利用者毎にまとめて職員に共有し、その内容を踏まえた支援を行っている。	具体的な内容を共有するが、職員により実施内容にばらつきがみられる。一貫した関わりができるようにする。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		法人で定めたアセスメントツールを使用している。	発達特性に対するアセスメントを身につける必要がある。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		それぞれの項目を網羅するフォーマットになっており、利用者毎に発達年齢や目標に合わせた内容を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		行っている。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		工作では季節ごとの内容を行っている。四季や自然を身体で感じられるように公園等の外での活動も行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		発達年齢や身体の発達、物事の理解度をアセスメントし、発達段階が近い利用者さん同士で小集団の活動を行っている。	発達段階に合わせて複数人での活動を行うための内容や関わり方を考える必要がある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日のコーディネート表で確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			実施できない日がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		利用記録への記載は、活動の内容、排泄、食事、薬、体調の変化等を記録している。利用記録を元に保護者に引き継ぎを行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に1度モニタリングを実施し、後期の児童発達支援計画を作成している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的には管理者児童発達支援管理責任者が参加しているが、内容によっては看護師も参加している。	電話や書面でのやりとりが多くなりがちである。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		医療とは指示書や報告書のやりとりを実施。教育機関とは、就学の際に引き継ぎを行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保育園への送り迎えでは、保育園の先生方と様子の共有を行っている。	保護者からの引き継ぎと、事業所からの引き継ぎを行っている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		書類を作成し、教育委員会へ提出している。教育相談を事業所で行い、ご本人の様子の見学を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			児童発達支援センターの中の相談支援事業所や地域の相談支援事業所と情報共有を行っているが、スーパーバイズや助言までは受けられていない。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			近所の公園で関わる機会があるが、定期的なかわりになっていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		朝と帰りの送り迎え時に保護者と共有している。課題等も確認し、解決するための方法も認識している。必要に応じて、面談の時間を設けている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			親子参加の行事を行い、交流の場を企画した。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約書重要事項説明書は年度毎に更新のため、毎年交付している。日々の支援内容は、帰りの引き継ぎの際にご説明をしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		行っている。内容によっては他のサービスを組み合わせる等の情報提供をしている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		児童発達支援計画の交付の際には、書面を元に説明し、同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		年2回面談を設けている。それ以外では、必要に応じて機会を設けている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		保護者同士が交流できる機会の希望が多くあるため、イベントの頻度を増やす。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情を受け付けてから、解決するまでの対応を整備している。苦情を受け付けた際は、早急に対応し、解決するようにしている。	小さなことから伝えていただける関係を築く。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		月に1回ぼわぼわという会報を発行している。日々の活動の写真や看護師からのお知らせを掲載している。	SNSの準備を進める。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		契約時に個人情報の取り扱いを保護者へ説明し、書面により同意を得ている。また、個人情報に記載されている書類の取扱いは鍵付書庫への保管、破棄する書類はシュレッダーをかけている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		口頭、文章など必要に応じて使い分けをしている。利用者毎にコミュニケーションツールを試し、意思表示に繋げている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。		○	学生の実習を受けている。	地域住民との交流の機会がほとんどない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		緊急時対応マニュアルは利用者毎に親御さんと相談確認の上作成している。感染症対応は契約時に文章を配布し、新型コロナウイルス感染症に関しては別途対応方法をまとめた文章を配っている。職員へはマニュアルや手順を共有、内容によっては実技を通して学んでいる。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを作成している。避難訓練は月に1回実施し、火災地震津波を想定した内容を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		主治医からは看護師への指示書、介護職員へは喀痰吸引実施の指示書をもとに報告書を提出している。保護者とは緊急時の対応を確認し、事前に連絡方法を確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師の指示書を発行していただき、対応方法を確認している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成している。感染症対策シミュレーション、送迎中の事故対応シミュレーション、緊急時対応シミュレーション等を実施している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	月1回のお便りで周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットは当事者は法人内のフォームに回答し、対策を検討している。他事業所で起きたヒヤリハットも共有し、予防に努めている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		自治体主催の研修へも参加し、事業所の職員へ虐待防止身体拘束適正研修を実施している。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		車いすやバギーではベルトを装着することを児童発達支援計画に記載している。また医療面でのアクシデントが起きた場合には、身体をおさえることもあることを説明している。		